

■米国：ERCOT、2019年夏期および今後5年間の厳しい予備力見通しを発表

テキサス電力信頼度協議会（ERCOT）は2018年12月4日、管内の今後5年間の予備力見通しについて、CDR（Capacity, Demand and Reserves）報告書を発表した。2019年夏期は、ピーク需要の増加や電源建設計画の中止や遅延などにより、2018年5月に発表されたCDR報告書より2.9%ポイント下がって、8.1%と予想されている。これはシステムの目標予備力13.75%、昨夏の予備力11%を下回る値である。ERCOT管内の需要増加率は2023年までに毎年2%程度とされているが、なかでもガスの開発が行われているテキサス州西部では年8%程度の増加が予想されている。ERCOTのこれまでの最大電力は2018年7月19日16～17時に記録した7,347.3万kWであるが、2019年夏期には7,485.3万kWと増加する見込みである。電源開発としては、同5月以降171.4万kWの商業運転が認可されたが、3つのガス火力（176.3万kW）と5つの風力（106.9万kW）が中止され、248.5万kWのガス、風力、太陽光の計画が遅延している。報告書では、2023年には予備力は7.5%まで低下すると予想されている。